

## 知事と区市町村長との意見交換会(渋谷区)

令和2年10月15日(木)

14時50分～15時10分

○**行政部長** それでは意見交換を始めさせていただきます。はじめに知事からお願いをいたします。

○**知事** 今日はわざわざというか、本当に直接お目に掛かるのって久しぶりで、一世紀振りかな。今日のご苦労様でございます。

コロナウイルスとの戦い、それぞれ続いているわけではありますが、ウィズコロナの時代をどうやって生きていくかというのが大きな課題であります。そしてまたそれが働き方や住まい方、人生そのものも変える勢いがございますけど、ここはウィズコロナをベースにしながら新しい日常、サステナブル・リカバリーということで構造改革を進めて、それをベースに長期戦略を策定しているところということで、目下の課題と、そしてまた将来的なことも含めて、現場の話を伺えればというふうに思っております。よろしく願います。

○**行政部長** それでは長谷部区長、ご発言をお願いいたします。

○**渋谷区長** 改めまして、またよろしく願います。まず冒頭、コロナの対策を、先頭を切って走っていただいていることを、本当に感謝申し上げます。

渋谷区の陽性者数とか、この傾向はほとんど東京都の数字と比例しているような感じと受け取っています。実際、人口10万人当たりで言えば、渋谷区はかなり上位にくるエリアです。敢えて言えば、いやな言い方かもしれませんが、コロナの最先端の地域の一つだというふうに認識しています。

現状やはり人数は、今、陽性者数はここ1か月くらい減りつつあるトレンドにある中、言われているとおり、少し下げ止まりの傾向が見えてきて、この先どうなるかなと。きっとこれが当分の間繰り返していきだろうという、やはりそういった前提の下、アクセルをしっかりとつけていかなきゃいけない中で、ぜひ、現状のそのコロナの対策というのは、しっかりと連携を取らせていただきながらお話をさせていただいているので、アフターコロナですね、ウィズコロナ、アフターコロナ、少し先の話を見据えて、少し意見交換ができればというふうに思っています。

まず第1点がGIGAスクール構想、これは文科省も上げているところですが、今回、幸い渋谷区は元々タブレットを一人1台配布していたことで、ロックダウンになっていた間もしっかりとそれなりの対応はできていました。

ただ、やはりそれもまだ不十分だという認識の中、この9月から全てまたシステムをバージョンアップして、機種もバージョンアップして、子供達に配って、また先生達の校務支援システムに繋げる形にして、さらにバージョンアップした形でトライを始めています。

多分世の中の流れ、これからきっとその子供達一人タブレット1台っていうのは、もっ

と増えていくと思うんですが、今の現状を簡単に分かりやすくなるべく言うと、システムがやはり幾つか分かれています。

タブレットをこれから配るっていう所はたくさん出てきていて、多分補助金の中で iPad だ、何だってお渡しすると思うんですけど、結局そこでももちろんできることはあるんですが、そこで終わってしまうんですね。必要なのは先生達の校務システムだったり、我々が今区役所で使っているシステムとどうリンクしていくかということだと思います。

ですので、今の流れを見ていると、そのタブレットを買うことばかりに他の自治体は、東京都内の、渋谷区以外の話を僕がするのも恐縮ですけども、なっていると。

だから結局、この先に全部統一していくことがデジタルスマート社会ですから、そうなれば、例えば所得に応じてこのエリアの学力がどう比例していくとか、教育の現場だけじゃなくて、まちづくりの一貫として教育を捉えて区政することができる、そういったところを見据えた形で、少し東京都にもう少しリードをしてもらえるとありがたいかなと。

例えば学校では、今のままだと例えば先生が他の区に転勤した時にまた違うシステムで一からになってしまったりとか、もしかしたらそういう恐れがあるというか、もう見えてきちゃっている状況です。

ですので、これに関してはぜひ教育委員会、東京都になりますから、少し引っ張っていただきながら、どういった形で各区のシステムと一緒に共通していくか。区長会でもこういう発言をしていて、なるべく共通のシステムを持っていこうよという話が今出始めているので、ぜひそういった流れの背中を押していただきながら、歩調を合わせて、日本の自治体の中で、東京ですから一番ここをリードしていくようなつもりでやっていただけたらと思います。渋谷区もう既に結構な投資をして、そのノウハウや知識がありますので、無駄なことを重ねる必要はないと思うんです。

例えば今度のタブレットの導入は、9月に代えるに当たっても1年以上掛けて、その前の3年間の積み重ねと1年ぐらいのディスカッションを、コンサルも含めて掛けて、要件定義に持ってくるのにやはり1億は言い過ぎかもしれませんが、それぐらいの時間とお金をかけてやっているんです。

でもそれって本当は共通でどこでも使えるはずなんですよね。なのでそういったものをベースにしてやっていけば、今からそういうことを始めようと思った自治体があれば、1年かけてその先にはならないで済むと思うので、そういった意味で東京都と情報交換をしたいと思いますし、引っ張っていただけると、ちょっとくどくなりましたがこれが1点目です。

併せて、この先デジタル化がもっと進んでいく中で、今、子供達の話はさせていただきましたが、高齢者に対してもこのデジタルデバイドの解消というのは非常に重要になってくると思います。

今、ちょっといろいろ試算して調べたり、考えているところなんですけど、来年度の予算の中で、高齢者がある程度の所にもう iPhone 等を配ってしまおうというふうにとちょっと思い始めているんです。

それには、例えばですけども、区の防災情報のアプリが当然入っていたり、かかりつけ医みたいなことが、できればそれも入っていたり、自分のシニアのコミュニティのLINEグループをちゃんとセットされたものを渡していく。ただし、その代わりデータはしっかりと吸い取らせていただく。それによってどういう消費動向があり、行動範囲があるとか、もしかしたら見守りの中でそういったものを付与して役立てていくとか、そういった実験を積極的に始めようと思います。

さっきの教育とも一緒になるんですけど、そういったデータを、個人名をちゃんと秘匿化した形で、なるべくオープンデータ化していこうと思うんです。

そこにはスタートアップというのは、この間エコシステムの拠点で都も選ばれて渋谷はその中心になるつもりで頑張っていますけども、そういったこととの接続、接続というか、環境を考えていくと、やはりそのデータを使ったイノベーションを起こしませんかという声の掛け方をすれば、もしかしたら教育に関する世界中の知見、イノベーションが集まってくるかもしれないし、今言ったそのまちづくりのところと繋がっていれば、このアフターコロナ、ウィズコロナで高齢者の生活をどう豊かにするかというイノベーションを起こすようなスタートアップが集まってくるかと思っています。

実際、今、渋谷区で区もその協業をするのでこのウィズコロナでアイデアを募集したところ、90社以上、海外から8社ですけども今来ていて、もう既に10社ぐらい、これはおもしろいなと思って、実際やってみようということを取り組み始めました。

やはり渋谷区とか東京というのは、そうやって惹きつける力があるので、そういった人達を惹きつけるような素地を作っていくこと。それがそのコロナと併せて、更に拍車をかけて解決に向けて進んでいくような形になればいいなというふうに思っています。

ですので、今テスト的に高齢者のところから始めようと思いますけど、一緒にやれる可能性があるんじゃないかと思っています。もちろん予算のこともあれば、実際にエリアを区で想定して、都と想定して一緒にやる、こんなことができたらいいなっていうことを、このデジタルデバインドについても考えています。ぜひ、ご協力いただければと。

最後に、簡単にまた絵だけお見せしながらお話ししますが、ここもご一緒にといいところで、ここは実は区が管理しているものなんで、河川のところになるので、緑道なので、直接都がどうこうという話ではないのですが、知っておいていただきたいということでご説明します。

玉川上水旧水路緑道というのが、ちょうど甲州街道、渋谷寄りの、この文化服装学園の裏辺りからずっと、一回世田谷の方に入るんですけどもまた戻って来て、環七の所までずっと緑道があるんです。それは元々、玉川兄弟が江戸の民のために生活用水を引いてこようということで引いてきた有名な道です。

上の方が文化服装学園の裏ぐらいのちょうどそこ、これ渋谷区の中だけなんですけども、切れている左の所は都庁辺りかな。こういった場所なんですけど、ちょっと送ってもらって。ここをどういうふうに関発しようかという中で、農道という農業をコンセプトにやっついこうというふうに考えています。

要するに、もう川を復活させるのは難しいんですけども、今、緑道以外でもっと生活に役立つ道に復活できないかということで、2.6キロの農業地にしようというふうに思っています、農道です。

下を流れている川の水を、多少ちょっと利活用して、水をまくことに役立てたりとか、あとテクノロジーを今進んでいますので、日当たりの悪い所はハウス栽培をしてということで、何となくのイメージをその次に持ってきているんですけど、場所はこのエリアですね、あれはオペラシティになります。右がハウスですけど、マーケットみたいなのを作ったり、フィールドみたいなを作ったり。これ多分都庁から近い所で、これから区が頑張ろうと思っているササハタハツというエリアの起爆剤になると思うんです。

なので、こういったまちで、これからもっと農業を通して都心の緑とコミュニティ、要するに渋谷の開発ってどっちかと言ったら来街者を含めての開発ですけど、これは本当に住民のための開発になると思います。ここも5Gを積極的に附置したりとか。そうするといろいろな農業の緑のネットワークみたいのが出来たりとか。

それで、ここよりも向こうにちょっと薄く一本あるのが水道道路という、東京都道になるんです。甲州街道の向こう側。これ多分、今から西新宿とか、非常にICTをもっと進めていこうというエリアだと聞いていますので、隣のエリアになりますから、前から言っているように、そちらに社会起業家達を集めてイノベーションを起こしていこうとか、そういったことをこういった空気感の中で更に拍車をかけていきたいと思っていますので、ぜひそちらは東京都の方に何卒お願いしますという、ちょっと話が長くなりましたが、そういったことをお伝えしたくてやってまいりました。ありがとうございます。

○行政部長 どうもありがとうございました。それでは知事からお願いいたします。

○知事 デジタル化にはもうどこよりも積極的に取り組んでこられたわけでありまして、さらにそれを教育の現場でも一人1台、既に行っておられるということです。

教育のICT化を推進するTOKYOスマート・スクール・プロジェクトですが、これも加速をさせていく。そして小・中学校でのICT環境整備の支援を行うということです。

今、お話ありましたように、既にいろんな知見と言いましょか、現実に実践しておられるので、いろいろ連携取らせていただいて効果的にと。

また、先進的な取り組みとして参考にさせていただきながら、今、一斉にそれぞれやっているのも、やはり宮坂さんと上手く相談しながらやっていった方が、それぞれで人材の確保をするだけでも大変だと思うんですね。そこは効率的な方法で進めていきたいと思っています。

それから一人暮らしの高齢者にスマホを配るということでもあります。

○渋谷区長 まだ決まったわけではありません。

○知事 それで生きていくことがより利便性があるとなったら、いわゆるデジタルデバイドというのがなくなるんだろうというふうに思いますね。この間、都市封鎖の時の武漢のおじいちゃん、おばあちゃんたちを見ていると、それがないと生きていけない、キャッシュレス社会なので、ですから皆音声入力でガンガン使っているの、やはり必要であると

使われる、また便利だと、プラスだと使うということなんだろうと。それによってシニアの社会参加を推進して、超高齢社会を見据えた、これも地域包括ケアシステムの一つのツールになるかと思います。そのように伺いました。このシブカツの取り組みについて、補助事業として支援をしております。いい例をまた作っていただければ、それがまた一つのスタンダードになり得るかと思います。

**○副知事** 緑道の方は私からお答えさせていただきます。お話の玉川上水旧水路緑道につきましてはお話のとおり、中野通りの辺りから京王線の南側に沿って、都庁付近まで2.2（※渋谷区の測定では2.6）キロメートルということで、大変区民の方、都民に親しまれているというふうに承っております。

ただ、整備が昭和50年代後半ということなので、このあたりで新たなコンセプトでさらなる活用ということ、まさに時宜を得たものだというふうに思っております。農業とか生活というコンセプトというお話も承りました。

そういう意味で、また今後、渋谷区さんの事業計画と一体となって、都としてもできることを適切にやらせていただきたい、支援させていただきたいというふうに思っております。

また、以前、都営住宅の…

**○渋谷区長** 水道道路。

**○副知事** はい。水道道路に沿って都営住宅がずっと建っておりますけど、そこの1階の店舗がなかなか今お店が入らなくて、抜けちゃって歯抜けになっていると。いわゆるそういう店舗の活用についてのお話もいただいておりますけれども、そこにつきましてはまず国に対して所要の手續、いわゆる用途廃止、公有住宅はどうしても国から補助金をいただいて作っておるところもございますので、国にまず用途廃止の手續をしなければいけないということがございます。それが行われれば別途の活用、新たに活用することも可能でございますので、その辺につきましてもそういう手續を踏みながら、都としてもご一緒になってやっていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

**○行政部長** それではお話を受けて、区長からいかがでしょうか。

**○渋谷区長** ありがとうございます。心強いお話をいただいて、ありがたく思います。

最後のササハタハツのところですけど、その都営住宅含めてあの道自体も都道でいらっしやるので、例えば逆側からああいうふうに緑溢れる農道になっていた中で、同じエリアですので、一応。甲州街道があって少し雰囲気は違うんですけど、何かしら、あれに負けないっていうのはちょっと言い過ぎかもしれませんが、緑を増やすとか、都営住宅を建て直していた中でそういった生活と緑に関わるようなコンセプトで何かできたら、さらにいいかなというふうに思います。

あとは空いている部屋を、商業だけではなくて、もしかしたらドローンの部屋みたいな感じで、そこからいつも飛び立って行って周りから戻ってくるようなものとか、そういったこととかも、要するにテクノロジーによって生活をサポートするところを、都庁のお膝元でぜひやりたいと思っているので、テクノロジーで野菜を育てる、植物を育てる、

テクノロジーで人の福祉を充実させる。もちろんそれで全てが解決はしませんが、かなりの進歩が見られると僕には確信があるんですけども、ぜひそのエリアをそういったイメージで捉えていただいて、推していただけるとありがたいなと思います。

○行政部長 どうもありがとうございます。それでは最後に知事からお願いいたします。

○知事 いつも先進的な取り組みをされ、区役所も随分デジタル化をベースにした区役所にされておられて、その後どうなっていますか。

○渋谷区長 さっき副知事におっしゃっていただいたので、またいろいろお話をさせていただきます。

○知事 フリーアドレスはどうしたの。

○渋谷区長 フリーアドレスも続いていますね。ただ、やはり同じ席に座りたがったりとか、当然あります。ただ、何よりもあれが一番効果的なのは、帰る時に机を全部綺麗にしてロッカーに入れて帰るので、そういった意味でも非常に情報の漏えいから含めて、非常にセキュアな環境になっています。時折、移動したりとか、特に今はいろんな働き方の多様さを求められている中、そういったことが少しでも可能になる、可能性のある職場にしたいと思っているので、変化しながらですけど、まだやっぺいこうと思います。

○知事 ありがとうございます。また長期戦略等々、いろいろ助言というか、アイデア等募りますので、よろしくどうぞ。

○渋谷区長 ありがとうございます。

○行政部長 どうもありがとうございました。以上で意見交換を終了いたします。